

第3回ボランティア学習・東京フォーラム2017 開催報告書

- 1.日 時：12月9日（土）15時～17時
- 2.場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟2F
- 3.テーマ：「ワークキャンプの可能性について考える」
- 4.参加者：22名（会員及び学生・社会人等）
- 5.講 師：「NPO法人good！」代表：磯田浩司氏及びスタッフ：村瀬つむぎ氏
- 6.内 容：講師による説明の後、活動体験の発表、発表者へのインタビュー、意見交換等が行われた。

7.概 要

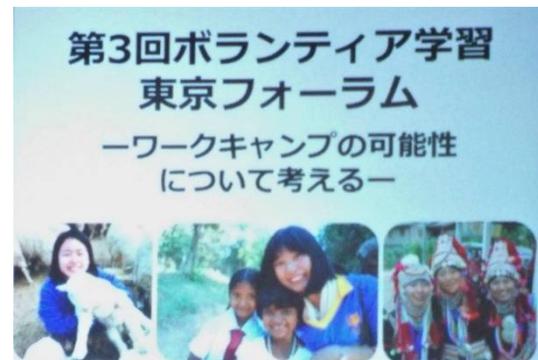
(1) 講師による「good！」の活動紹介

①「good！」の紹介

2001年から17年間、約3000名の参加者。

②「ワークキャンプ」とは

課題のある地域で共同生活をしながら課題解決に取り組むもので、海外2週間、国内での短期の活動も実践している。



(2) 参加学生や社会人等による活動体験の発表・インタビュー

「ワークキャンプという非日常の活動が自分にとってどんなターニングポイントになったのか。」

〈要旨〉

活動参加者8名がワークキャンプに参加したことで自分自身がどのように変わったのか、について、それぞれの体験を語ってくれた。

- ・参加する前は休学していたが、参加によって人生のリセットボタンを押し、人生が動き出した。心から笑えた、知らない世界を見る面白さに気づき人生を楽しもうと思うことで、「なりたい自分」を見つけられた。
- ・自分がムリして、取り繕って生きてきたことに気づいた。人と真剣に関わることを体験し、封印していた自分を解放できた。
- ・ちゃんと人と話そうと思うようになった。悩んだことや辛かったことはなかったことにしてきた。しっかり話してみてそれを受容してくれる仲間と出会えた。
- ・周囲に合わせて何となく生きてきたことを指摘された。活動で教科書に載っていない世界に出会い、先入観にとらわれていたことに気づいた。
- ・世界の広さ、人ときちんと向き合うことの大切さに気づいた、信頼できる人

との出会いが今の自分の「自信」になっている。(社会人2年目)

- ・人とのかかわり方や人を見る力が身につくについて、看護師として働く中で、患者さんの気持ちを相手の立場にたって理解できるようになった。(社会人2年目)
- ・自分のキャラクターを決め、それで揺るがない自分を確立していたが、自分の中身のなさに気づき尊敬する、なりたい人を見つけた。人と向き合ったことで自分を知ることができた。
- ・ワークキャンプによって、扉がぱっと開いたような衝撃があり、自分自身が解放された。

4. 参加者間の意見交換

「ワークキャンプの意義」

- ・均一の価値観で周囲に合わせてやり過ごしてきた、いじめなどから身を守り、傷つかないようにするために、自分の気持ちを封印し鎧をまとうようにしてきた、周囲の期待を裏切らないよう真面目で強い自分を演じてきた、そんな若者たちが圧倒的な自然の中で分断されていないコミュニティとしての地域と出会う、またスマホのない非日常で開放される、という体験を通して自己を開放し、向き合い、語り合い信頼を深め、ゆるがない自信をつける、そのような劇的な体験をワークキャンプが作っている。

現代の若者たちの閉塞感、スマホなどによる監視、息苦しい日常の壁を破るのが非日常のワークキャンプである。

(大坪直子)

